

みやこの歴史発見伝 131

令和とその時代 12

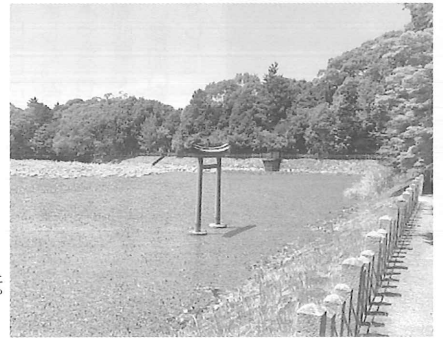
みやこのダム物語③

古代の池と「御神輿」の起源

例年、この時期には、各地で収穫に感謝する秋祭りが行われているところですが、今年も、新型コロナウイルス感染症予防のため、多くの祭りが中止される事態になりました。また同時に、祭りに欠かせない「御神輿」を目にする機会も減ってしまいました。全国の様々な祭りにみられるこの「御神輿」の起源を探ってみると、豊前国の「古代の池」を舞台に、元号「令和」の典拠となった歌を詠んだ「大伴旅人」本人が深く関わった神事に辿りつくことができます。今回は「御神輿」のルーツからみえてきた「古代の池」と「令和」の歌の作者との意外な関係について、ご紹介いたします。

「御神体」の池

現在の北九州市から大分県宇佐市を含む地域は、今から1300年ほど前「豊前国」とよばれていました。この国の国庁（現在の都道府県庁）が「豊前国府跡」（みやこ町国作）です。この豊前国内に位



薦神社の「御神体」三角池

真菰を使った神事は、出雲大社（島根県）等でもみることが出来ます。

「武人」大伴旅人と三角池

奈良時代の養老4年（720）九州の薩摩、大隅を中心に勢力を拡大していた「隼人」が乱を起こします。この乱の鎮圧のため九州に向かったのが、「令和」の典拠になった歌を詠んだ大伴旅人です。元号「令和」により、歌人のイメージが定着している旅人ですが、武人としても功績を残した人物で、征隼人持節大將軍として、一万人の兵を率いて九州へ向かっています。

この時、戦いの神である「八幡神」の依代「薦枕」を三角池の真菰で作りますが、前述の「八幡宇佐宮御託宣集」の中に「豊前国司に仰せつけられ、初めて神輿を作らしむ」という記載がみられます。これは当時の豊前国の国司（現在の県知事に該当）の宇努首男に命じて、御神体「薦枕」を乗せるための神輿を作り、これを奉じて戦場に赴き、乱を鎮めたと伝えられています。この時、用いられた「神輿」が現在各地でみられる御神輿の起源とみられています。

僧「法蓮」と博仏

この乱には「法蓮」という僧侶が同行した記録がみられます。法蓮は英彦山などで修行し、宇佐神

宮内にあつた弥勒寺の初代別当（寺務を統括する長官）を勤め、虚空蔵寺（大分県宇佐市）を創建した人物とみられています。この虚空蔵寺跡から、博仏（タイル状の仏像）が出土しています。この博仏は、「西遊記」で知られる玄奘三蔵がインドから持ち帰った博仏を祖形として中国から奈良に伝えられ、その後法蓮によって宇佐に持ち込まれたものと推測されます。この虚空蔵寺の博仏と同じ型で作られた博仏が豊前国分寺跡付近の遺跡から出土していますが、この形状の博仏は奈良でも数少ない極めて貴重なものであり、九州では虚空蔵寺跡とみやこ町以外では出土例が確認できない遺物であることは、特に注目されます。

「池は神だった」

作家の司馬遼太郎氏は自身の著書「街道をゆく」の中で、薦神社について「宇佐神宮の先祖」という見方を示し「まことに池は神だった」と述べています。米が経済の根幹を支えていた当時、その取量の増減は水の供給状況等に左右されるものでした。そのため、天候等

の影響を受けることなく水田に水を供給できる「古代のダム」は、当時の人々にとっては、単なる「最新式の灌漑施設」ではなく、「龍」であり、「神」として人々の信仰の対象となったことが伺えます。大伴旅人も乱の鎮圧に際して、このような池の霊的な力を見出し、それを託すための薦枕や、国内初とみられる御神輿の制作に、かつてこの町に所在した国府の国司が携わった可能性が伺える事は非常に興味深いものです。

これまでご紹介してきた内容を通過して、池田遺跡（最古級のダム）と伊良原ダム（最新のダム）を改めて見つめなおしてみると、1000年以上の時を隔てても、ダム築造の背景に垣間見える人々の思いは全く変わっていないように感じます。

（井上信隆）



正道遺跡（みやこ町国分）出土博仏

博物館だより



No.168

令和2年11月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS

①ちっちゃな発見があるかも…

館内ホールで「いろいろどり」ミニ展示ははじめました

博物館では新企画として「いろいろどり」ミニ展示と題した三つのミニ展示を始めました。各展示のネーミングとテーマは次の通りで、小さな展示をよりどりでお楽しみ頂けるよう工夫しました。

①ちっちゃないっぱいミュージアム

普段は収蔵庫保管する貴重な「いっぴん(二品・逸品)」を「蔵出し」紹介するミニ展示。

②博物館の「ささやかギャラリー」

ネーム通りにささやかですが、歴史系以外の資料(美術工芸や自然科学系資料など)を紹介します。

今回は「自然の美・人工の美」と題し、「見逃し」な昆虫標本とやきもの「美」の共通点で、並べてみました。

②コロナ下での活動第2弾

文化遺産ボランティア

ガイド編で蔵持山の清掃登山へ

文化遺産ボランティアでは、10月4日(日)に蔵持山で清掃登山を行いました。台風の影響等で登山道に枯木や落石が充満していましたが、活動成果で大分歩きやすくなりました。参加いただいた皆さん、お疲れ様でした。



▲蔵持山参道清掃の様子
同山は気軽に登れる里山の霊山として注目されています



▲開催中のミニ展示の様子
ディスプレイ手前から①いっぴんミュージアム②ささやかギャラリー(左端)③向井澄男ミニ写真展(右奥)

③向井澄男ミニ写真展「橋ねがう」

ふるさと写真家として活躍され、逝去に膨大な写真資料を寄贈頂いた故向井澄男さん。その写真を活かしたミニ展示を企画しました。テーマは「橋」鮮やかな折りの情景で、岩戸神楽の写真を通して、災厄鎮撫を願う鮮やかな折りの姿を堪能頂けます。以上の展示は11月末まで観覧無料です。お気軽にお越し下さい。

◆講座・教室・催し物ガイド

11月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
11月7日(土) 9時30分
 - 【古文書講座】
11月14日(土) 10時
 - 【古典かな講座】
11月21日(土) 9時30分
 - 【みやこ学講座】
11月28日(土) 10時
- ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対応に伴い日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途ご案内します。

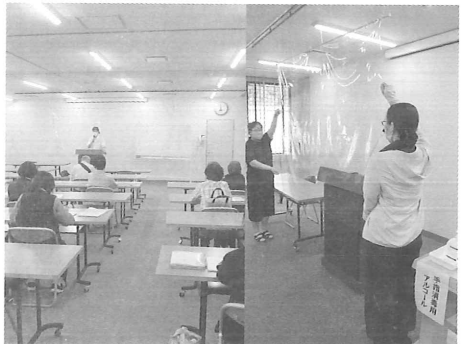
9月の業務日誌から

9月5日(土)、長らく開催を見合わせていた歴史講座が再開されました。再開には十分なコロナ対策を講じつつ、皆さんの学びの確保するという課題に悩まされましたが、無事再スタートを切ることができました。

9月8日(火)から5日間、九州保健福祉大学(宮崎県)の原田真帆さんを博物館実習生として受け入れました。神楽研究がテーマとのことで、神楽文献や古装束調査などを実習・体験頂きました。

9月8日(火)、節丸小学校5・6年生の児童が、みやこ町の歴史の授業で町内の史跡を巡りました。勝山の古墳では、現在のようない時代に巨大な石材を積み上げて築いた石室をみて、古代の人々の技術の高さに感動の様子でした。

9月30日(水)犀川小学校3年生の児童を対象に「地域学習」の出前授業を実施しました。新校舎の地下に約2000年前の遺跡があったことや、犀川出身の有名な人物などについて詳しく学ぶことができ、より一層犀川のことが好きになりました。



▲会場を手作りの飛沫防止シートや交互着席・換気等で養生



▲学校や住んでいる地域の歴史に驚きの様子でした



▲昭和初期と見られる神楽装束の確認と着付を終えて一息



▲古墳前の鳥居にある「女帝神社」の額面に興味深々の様子